

## IMF 専務理事のグローバル政策アジェンダ

### より高きを目指し、一層の努力を

2014 年 10 月

世界経済の動向は、前回（2014 年 4 月）比さしたる変化はなく、依然として満足とはいえない状況にある。回復は緩くばらつきがあり、半年前の予測より悪く、下振れリスクが増大している。このような中、極めて緩やかな雇用の回復が日常となる「新たな低成長」に世界経済が陥ることを防ぐためには、大胆かつ断固たる政策の実施が不可欠である。具体的な政策については、以下の三点に留意する必要がある。

- **より強い成長を。** コンフィデンスを強め、現時点および将来の潜在成長率を引き上げること、そして経済の停滞と不十分な雇用の創出というパターンを打破するためには、果敢な構造改革が不可欠である。その間、需要を下支えしかつ各種の構造改革の痛みを吸収するために、緩和的な金融政策スタンスを継続する必要がある。しかし、そのような金融政策は、根深い労働・製品市場における歪みの是正、生産性の高い部門への信用供与の改善、成長をよりサポートする財政政策、インフラギャップの解消などの、各種の重要な構造改革を伴うものでなければならない。
- **よりしなやかな金融・経済へ。** 極めて低い資金調達コストが、市場および流動性リスク—とりわけシャドバンキング部門における—を上昇させ、金融の安定性を損なう可能性がある。マクロプルーデンス・ツールの開発と導入を含めた、適切な規制および金融部門への間断なき監督が、金融の過度なリスクテイクの抑制に寄与する。同時に、金融環境の悪化に対する備えも強化する必要がある。一部の主要国・地域における金融政策の正常化が近づくなか、より強力な政策の枠組み、各種制度及び経済のファンダメンタルズが、金融政策の正常化に伴う潜在的な負の波及効果を軽減することができる。
- **（グローバルな）政策の整合性の確保。** 大胆な構造改革政策の便益を増大させ、同時に金融の安定性や各国間のインバランスに代表される、既に存在する各種の歪みの悪化を回避するためには、国際協調による整合的な政策の実施が不可欠である。（各国間の）対話と政策面での連携が、グローバル需要の円滑なリバランス（再調整）、いくつかの国における金融緩和政策からの脱却の他国への波及効果とそのスピルバックの最小化、金融規制の一貫性の確保、及び十分な世界的な金融のセーフティネットを維持することに寄与する。また、新たなモメンタム（勢い）を国際貿易の対話へと吹き込む必要がある。

火急の課題を抱える加盟国支援のための融資とキャパシティ構築への IMF 資源の再編や、マクロ金融のサーベイランス（政策監視）の強化、マクロプルーデンス・ツールを利用も含めた、金融政策の正常化へ対する政策アドバイスや各種分析の提供、成長をよりサポートする財政政策とマクロ面で重要な構造改革の実施によって、IMF は加盟国が上述の政策アジェンダを実施することを支援する。また、今年末までに 2010 年改革が批准されない場合は、現行の制度の範囲内で可能な対応策を検討することになる。